

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	つないで、つないで、一つのお話 1時間（話・聞①） ◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■グループで一人一文ずつつないで、一つのまとまった話を作る。 ☆よりよい人間関係の形成（特別活動）	1	1 扉の詩を読み、目次や、P6「六年生の国語の学びを見わたそう」を見て、既習事項を確かめ年間の国語学習を見通すとともに、P11「ものの考え方、伝え方」で、情報を整理して伝える言い方を使っていくことを確認する。 2 「つないで、つないで、一つの話」の活動的目的と流れを確かめる。 3 最初と最後の一文を決め、グループで二周する間に物語がつながるようにお話を作る。時間に余裕があれば、「もっと楽しもう」に挑戦する。 4 友達とお話をあってどう感じたか、活動の振り返りをする。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。（A(1)エ） 【態】進んでつながりを捉えながら話を聞き、見通しをもって話を作ろうとしている。
4月	春の河 小景異情 続けてみよう 1時間（読①） ◎これまでに身につけてきた音読の技能をいかして、詩を音読することができる。（知・技(1)ケ） ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■詩の音読を聞き合い、感想を交流する。	1	1 情景を思い浮かべながら音読する。 ・文語調の表記や表現の工夫に着目する。 ・自分が想像した情景を伝えるために、どう音読すればいいかを考える。 ・言葉の抑揚や強弱、速さ、間の取り方などについて気をつける。 2 音読を聞き合い、互いに感じたことを伝え合う。 3 学習のまとめをする。 ・P16「続けてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもつ。	【知・技】これまでに身につけてきた音読の技能をいかして、詩を音読している。（(1)ケ） 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） 【態】音読の技能をいかすことに進んで取り組み、互いの表現の意図に応じて詩の音読について感想を交流しようとしている。
4月	1 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう 帰り道 4時間（読④） ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○自分の思いや考えが聞き手に伝わるように文章を音読することができる。（知・技(1)ケ） ■物語を読み、感想を書いて伝え合う。 ☆友情や信頼、相互理解に関わる題材（道徳）	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・単元名とリード文を読み、自分がどんな帰り道を過ごしているか、また、「律」と「周也」の帰り道にどんなことが起こるかを考え交流する。 ・P9-10で既習事項を確かめるとともに、P30、309で「視点」の意味や使い方を押さえれる。 ・全文を読んで、「視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「律」と「周也」の人物像を考え、交流する。 ・同じ出来事に対する登場人物の捉え方や心情について、共通点や相違点をまとめる。 ・登場人物の心情が伝わるように音読する。 ・二人の人物像を考え、発表し合う。 3 「律」と「周也」の心情がどのように変化したかを考え、その後の二人の関係を想像する。 ・P31「感想を書く観点の例」を参考に、次時に感想をまとめための見通しをもつ。 4 感想を書き、交流する。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえれる。 ・「この本、読もう」で読書へと広げ、読んだ本について読書記録を付ける意識をもつ。	【知・技】自分の思いや考えが聞き手に伝わるように文章を音読している。（(1)ケ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】進んで視点の違いに着目して心情などを捉えて読み、学習の見通しをもって感想を書いて伝え合おうとしている。
4月	地域の施設を活用しよう 1時間（知・技①） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ）	1	1 教科書を読み、地域で活用できる施設を探る。 ・P34-35を読み、自分たちの地域にどんな施設があるか、それぞれどんなときに活用できるかを確かめる。 2 「記録カード」例を参考に、調べて分かったことの記録のしかたを知る。 ・実際に、学校図書館などで何かを調べて記録力	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【態】読書生活に関わる地域の施設に 관심をもつとともに、目的に応じて進んでそれらを活用しようとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			<p>一ドに書いてみるとよい。</p> <p>③学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて地域の施設等を活用すること、調べて分かったことを記録していくことに意欲をもつ。 	うとしている。
4月	漢字の形と音・意味 2時間（知・技②） ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	<p>1同じ部分をもつ漢字には、音も共通する場合があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> P36の設問①に取り組む。 <p>2同じ部分をもつ漢字には、意味のうえでつながりがある場合があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> P37の設問②に取り組む。 <p>③学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形・音・意味に着目して、漢字を読んだり書いたりすることにいかそうとする意識をもつ。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 漢字の由来、特質などについて理解している。（(3)ウ） <p>【態】進んで漢字の由来、特質についての理解を深め、今までの学習をいかして漢字を文や文章の中で使おうとしている。</p>
4月	春のいぶき 2時間（書②） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■身の回りで感じる「春」を俳句や短歌で表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材（社会、道徳）	1 2	<p>1「春のいぶき」という言葉からイメージするものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りで感じた「春」を交流する。 教科書で示されている二十四節気、短歌、俳句を声に出して読む。 <p>2自分の地域で感じる「春」を俳句や短歌の形式に表して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 俳句や短歌の形式や決まりを確かめる。 自分の感じる春が表れるような言葉を選んで作る。 <p>3書いた作品をグループで読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 語感や言葉の使い方、選び方など、表現の工夫に着目して感想を伝え合う。 	<p>【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方にに対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）</p> <p>【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、表現の意図に応じて言葉を吟味しながら、俳句や短歌を作ろうとしている。</p>
4月 ～ 5月	聞いて、考えを深めよう 6時間（話・聞⑥） ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ○文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ） ■意見を述べ合ったり、それを聞いたりして自分の考え方をまとめる。	1 2 3 4 5 6	<p>1学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話の聞き方や、聞いて自分の考えが変わることについて、P7「五年生の学びを確かめよう」などを用いて振り返る。 「話の内容をとらえて、自分の考えをまとめよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2話題を確かめ、自分の考え方を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> P41の例を参考に話題を決め、賛成・反対の立場をはっきりさせて、具体的な理由を挙げながら考える。 <p>3話題について、友達から聞きたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> P41「話を聞くときの観点」を参考に、自分の考え方を深めるために、友達からどんなことを聞きたいかを明らかにしておく。 <p>4グループで考え方を聞き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> つなぎ言葉や文末表現、意見と理由、事例とのつながりに気をつけて聞く。 <p>5出た意見をもとに自分の考え方を深め、グループで交流する。</p> <p>6話を聞くときに大事なことについてまとめ、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえる。 	<p>【知・技】文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解している。（(1)カ）</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめている。（A(1)エ）</p> <p>【態】互いの考え方を比較しながら進んで話を聞き、学習の見通しをもって自分の考え方をまとめようとしている。</p>
5月	漢字の広場① 1時間（書①）	1	1教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっている出来事を想像する。	【知・技】 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>■絵の中の出来事を説明する文を書く。</p>		<p>2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、例にならってそれぞれの出来事を伝える文を書く。</p>	<p>で使っている。((1)エ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)</p> <p>【態】第5学年までに配当されている漢字を積極的に使い、学習課題に沿って出来事を説明する文章を書こうとしている。</p>
5月	2 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう			
	<p>笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 【情報】主張と事例 7時間 (知・技①, 読⑥)</p> <p>◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>■主張を述べた文章を読み、自分の考えをまとめて発表する。</p>	1 2 3 4 5 6 7	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元名とリード文を読み、「筆者の主張や意図を捉え、自分の考えを発表しよう」という学習課題を確認し、学習計画を話し合う。 <p>2 「笑うから楽しい」を、語句の意味を確かめながら読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを捉え、事例を挙げることの効果とその有効性について考える。 ・この文章に対する自分の考えをまとめる。 <p>3 「時計の時間と心の時間」を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P54 下段「言葉に着目する」を参考に内容を捉え、筆者の主張や文章全体の構成についてまとめる。 ・P54 下段「話し合いの例」を参考に、筆者の主張と複数の事例との関係に着目して、論の進め方の意図について話し合う。 <p>4 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P55「発表の例」を参考に、筆者の主張に共感・納得したり、疑問に思ったりしたことや、自分が体験したことを重ねて、ノートに考えを書く。 <p>5 考えを発表し合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えに対する意見を聞き合い、感想を交流する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身についた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で関連する本の読書意欲を高める。 <p>6 P57「主張と事例」を読み、主張と事例の関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例を参考に、主張と事例の関係をふまえながら自分の考えを話す。 	<p>【知・技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) <p>【態】進んで主張と事例の関係を捉えて読み、学習課題に沿って自分の考えをまとめて発表しようとしている。</p>
5月	話し言葉と書き言葉 1時間 (知・技①)	1	<p>1 教科書の例文を読み、話し言葉と書き言葉の特徴について、経験の中で気づいたことを交流する。</p> <p>2 話し言葉と書き言葉の違いについて整理する。</p> <p>3 相手や場面などによる違いについて話し合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P59 1の設問や「いかそう」について考え、グループで話し合う。 	<p>【知・技】話し言葉と書き言葉の違いに気づいている。((1)イ)</p> <p>【態】進んで話し言葉と書き言葉の違いについての理解を深め、場面や相手に応じて適切な表現をしようとしている。</p>
6月	たのしみは 3時間 (書③)	1 2	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題として、「言葉を選んで、短歌を作ろう」を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 短歌にしたい場面を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P61 の短歌二首を読み、内容の大体を理解する。 ・自分の中の「たのしみ」を想起し、心に残っていることを言葉に書き表す。 <p>3 言葉を選び、表現の工夫を考えながら短歌を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌のリズムや決まりを確かめる。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方について知識を得ている。((3)イ)

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>り作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>○短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ)</p> <p>■短歌を作る。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を入れ替えたり、語順を変えたりするなど表現の工夫をする。 4 短歌を短冊に書き、グループで読み合う。 ・題材や表現のしかた、言葉の使い方に着目して感想を伝え合う。 5 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえる。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えている。(B(1)オ) ・「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つける。(B(1)カ) <p>【態】書き表し方に着目して表現を整えることに粘り強く取り組み、今までの学習をいかして短歌を作ろうとしている。</p>
6月	<p>文の組み立て</p> <p>2時間 (知・技②)</p> <p>○文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。(知・技(1)カ)</p>	1 2	<p>1 教科書で示されたカードを並べ替えて文を作り、友達のものと見比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の文の語順について確かめる。 <p>2 例文を読み、文中の主語と述語、修飾と被修飾の関係を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係が複数ある文は、指示語を補うなどして短い文に分けて書き直せることを確かめる。 <p>3 P65 の設問について考え、友達と話し合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いかそう」を読み、文の組み立て方について理解が深められたか確認する。 	<p>【知・技】 文の中での語句の係り方や語順について理解している。((1)カ)</p> <p>【態】 進んで語句の係り方や語順についての理解を深め、表現の意図に応じて分かりやすく文を組み立てていこうとしている。</p>
6月	<p>天地の文</p> <p>1時間 (知・技①)</p> <p>○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>■音読する。</p> <p>☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材 (社会、道徳)</p>	1	<p>1 教材文を音読する。</p> <p>2 大意を参考に内容の大体を捉え、繰り返し音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間や週日など、暮らしの基本となる決め事について書かれていることを確かめる。 <p>3 筆者の考えについて、感想を発表し合う。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方について知識を得ている。(3)イ) <p>【態】 進んで文語調の文章の言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習をいかして音読しようとしている。</p>
6月	<p>【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき</p> <p>2時間 (書②)</p> <p>○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができます。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■条件に応じて、報告書を書き直す。</p>	1 2	<p>1 情報を整理して伝えることについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P68 を読み、身近な例を取り上げて、情報と情報にはどのような関係があるか、またその関係をどう整理して伝えるかを知る。 <p>2 例文を使って、情報と情報をどうつなげて伝えればよいのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P69 の設問に沿って、集めた情報がどのような関係にあるのか、また、どのようにつなげると文意が伝わるのかを考え、書き表す。 ・書いたものを交流して、情報と情報をつなげて伝えるときに大事なことをまとめる。 <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いかそう」を読み、書くときだけでなく、文章を読むときにも、情報と情報の関係に着目するよいことを確認する。 	<p>【知・技】 情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】 進んで情報と情報との関係づけのしかたについて理解を深め、学習課題に沿って分かりやすく書いて伝えようとしている。</p>
6月 7月	<p>私たちにできること</p> <p>10時間 (書⑩)</p> <p>○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p>	1	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「具体的な事実や考え方をもとに、提案する文章を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P70-71 を読み、身の回りで自分たちが取り組め 	<p>【知・技】 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができます。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫することができます。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■提案する文章を書く。</p> <p>☆探究的な課題の解決に関わる題材（総合的な学習の時間）</p> <p>☆自然環境を大切にする意志を育てる題材（道徳）</p>	2 3 5 6 8 9 10	<p>2 そうなテーマについて考える。 提案文を書くための資料を集め。・テーマに応じて、学校図書館やインターネットで調べたり、インタビューをしたりして情報を収集する。</p> <p>3 グループで、問題点や解決策など具体的な事例を取り上げながら、提案内容について話し合う。</p> <p>4 提案文の構成を考える。 ・提案のきっかけや内容の骨子を確認しながら文章の組み立てを考える。 ・P68「情報と情報をつなげて伝えるとき」を参考に、情報どうしの関係に気を配る。</p> <p>5 グループで提案文の下書きをする。 ・「提案するときには使う言葉」を参考に、内容のまわりごとに分担するなどして書く。</p> <p>6 下書きをグループで検討して清書する。 ・P74の作例を参考に、内容や書き表し方の工夫について、意見を出し合って推敲する。</p> <p>7 書いた提案文を他のグループと交流する。 ・分かりやすい、説得力がある書き方だと感じた部分を伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身についた力を押さえる。</p>	<p>図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>・「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p> <p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【態】筋道の通った文章となるように、粘り強く文章全体の構成を考え、学習の見通しをもって提案する文章を書こうとしている。</p>
7月	<p>夏のさかり 2時間（書②）</p> <p>○語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができます。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■季節を感じる言葉を用いて手紙を書く。</p> <p>☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材（社会、道徳）</p>	1 2	<p>1 「夏のさかり」という言葉からイメージするものを発表する。 ・身近で感じた「夏」を伝え合う。 ・教科書で示されている二十四節気の言葉や解説、短歌や俳句を音読する。</p> <p>2 自分の地域で感じた「夏」を知らせる手紙を書く。</p> <p>3 書いた手紙を友達と読み合い、よさを共有する。 ・言葉の選び方や書き表し方など、表現に着目して感想や助言を伝え合う。</p>	<p>【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方にに対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、意図に応じて言葉を吟味しながら手紙を書こうとしている。</p>
7月	<p>私と本 森へ 5時間（読⑤）</p> <p>○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができます。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>■テーマで本を読み広げ、ブックトークをする。</p> <p>☆生命や自然との関わりに関する題材（道徳）</p>	1 2 3 4 5	<p>1 「学習の進め方」を確認して「自分と本との関わりをふまえて、本を紹介し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 自分と本との関わりを考える。 ・P79を参考に、読書記録などをもとに読書生活を振り返る。</p> <p>3 特に心に残っていた本や、その本がもつテーマについて交流する。</p> <p>4 これから読んでみたい本のテーマを考える。 ・P81やP265「本の世界を広げよう」を参考に読む本を決め、並行読書を始めてよい。</p> <p>5 「森へ」を読み、P82を参考にブックトークの手順を確かめる。 ・「森へ」で心に残ったことを交流する。</p> <p>6 自分で考えたテーマに沿って、紹介したい本を決め、ブックトークをする。 ・印象に残っている本を再読したり、新たに選ん</p>	<p>【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) <p>【態】進んで読書の役割についての理解を深め、これまでの読書生活を振り返って、テーマに着目した本の交流をしようとしている。</p>

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			<p>だ本を読んだりして、紹介のしかたを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでブックトークをし、本の魅力を伝え合う。 <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たいせつ」を読み、今後の自分と本の関わりや読書することのよさについて考える。 	る。
9月	せんねん まんねん 1時間（読①） ◎詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■詩を読み、考えたことを伝え合う。	1	<p>1 詩を繰り返し音読する。</p> <p>2 反復や擬人法などの表現の工夫について、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような情景が描かれているか想像し、考えを交流する。 ・表現の工夫が読み手に与える効果を考える。 	<p>【知・技】 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）</p> <p>【思・判・表】 「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ）</p> <p>【態】 楽しみながら詩の表現の工夫とその効果を考え、今までの学習をいかして互いの考えを伝え合おうとしている。</p>
9月	いちばん大事なものは 2時間（話・聞②） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■メンバーを変えながら、考えを尋ね合う。	1 2	<p>1 これから的生活の中で、どんなことを大切にしていきたいか、自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P94 吹き出しの例を参考にする。 <p>2 三人一組のグループを作り、考えを聞き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えがよく分かるように、考えた理由や、これまでの経験などを尋ね合う。 ・二度メンバーを入れ替えて、同様に互いの考えを聞き合う。 ・最後に、初めのグループに戻って、印象に残った友達の考え方や、広がったり深まったりした自分たちの考えを交流する。 <p>3 最終的な自分の考えをまとめ、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いたことを読み合い、「いちばん大事なもの」についての互いの考え方や、対話の意義について交流する。 	<p>【知・技】 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。（(1)オ）</p> <p>【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）</p> <p>【態】 積極的に自分の考えを広げたりまとめたりしながら、学習の見通しをもって互いの考えを尋ね合おうとしている。</p>
9月	利用案内を読もう 3時間（読③） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■利用案内を読み、その特徴について交流する。 ☆情報を収集し、必要な情報を取捨選択する題材（社会・総合的な学習の時間）	1 2 3	<p>1 利用案内や説明書、広告などから情報を得るという経験について想起する。</p> <p>2 知りたい事柄に応じて、利用案内を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P98 の資料がどのような内容や構成になっているかを確かめながら、P97 1 の設問に必要な情報を読み取る。 ・P97 2 3 の設問に必要な情報について話し合う。 <p>3 知りたい事柄に応じて、ウェブサイトを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P97 4 の設問に沿って話し合う。 <p>4 紙媒体の利用案内とウェブサイトの違いや、それぞれの活用のしかたについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P98-99 の資料を比較し、その違いをまとめる。 ・各自がまとめたものをもとに、グループや学級全体で話し合う。 ・実際に近隣の公共図書館のウェブサイトを見て、確かめる。 <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） <p>【態】 身の回りのさまざまな媒体から必要な情報を見つけることに関心をもち、学習課題に沿って効果的な読み方について交流しようとしている。</p>
9月	熟語の成り立ち 2時間（知・技②） ○語句の構成や変化について理解することができる。（知・技(1)オ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	<p>1 漢字二字・三字の熟語の成り立ちを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典を使って意味を調べる。 ・漢字三字の熟語のでき方の特徴を捉える。 <p>2 漢字四字以上の熟語の成り立ちを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の熟語例を使って確かめたり、知っている熟語をつなげて長い熟語を作ったりする。 <p>3 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・語句の構成や変化について理解している。（(1)オ） <p>【態】 進んで熟語の構成についての理</p>

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
				解を深め、学習課題に沿って熟語を調べたり書いたりしようとしている。
9月	漢字の広場② 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の出来事を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、遊園地での人々の行動を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字のもつ意味を考えながら、同音異義語などに注意して正しく使い、例にならって遊園地での人々の行動を文章に書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】第5学年までに配当されている漢字を積極的に使い、学習課題に沿って出来事を説明する文章を書こうとしている。
9月 ～ 10月	3 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう やまなし 【資料】イーハトーヴの夢 8時間（読⑧） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を資料と重ねて読み、作品世界について考えたことを書く。 ☆主として生命や自然との関わりに関する題材（道徳）	1 2 3 4 5 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・P103で題名や写真から物語を想像する。 ・これまでの物語の学習を P9-10「五年生の学びを確かめよう」で振り返り、「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」という学習課題を設定して、P124-125を参考に学習計画を立てる。 2 「やまなし」の世界を捉える。 ・「やまなし」を読み、二枚の青い幻灯に描かれた谷川の様子を簡単な絵や図で表す。 ・資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について感想を伝え合う。 3 「やまなし」を読み深める。 ・心を引かれる表現に線を引き、「五月」「十二月」の情景を対比しながら想像する。 ・作者がなぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考える。 4 作者が作品に込めた思いや考えについて、自分の考えをまとめる。 5 書いたものをグループで読み、感想を交流する。 ・友達の考えと似ているところや、違うけれども納得したところなどを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を確認する。 ・「この本、読もう」で読書を広げる観点を確かめるとともに、二次元コードを活用して読書への意欲をもつ。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） 【態】表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。
10月	言葉の変化 2時間（知・技②） ◎語句の由来などに关心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができる。（知・技(3)ウ）	1 2	1 時代による言葉の違いがあることを知り、自分の身の回りから例を探して交流する。 2 世代による言葉の違いがあることを知り、例を探して交流する。 ・P129 1 の設問に提示された言葉について、違う言い方を調べる。 3 学習を振り返る。 ・「いかそう」を読み、誰にでも分かりやすい言葉とはどういうものかを確かめる。	【知・技】語句の由来などに关心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づいている。（(3)ウ） 【態】時代や世代による言葉の違いについて進んで理解を深め、学習課題に沿って変化した言葉について調べようとしている。
10月	秋探し 2時間（書②） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意	1 2	1 「秋」を感じる言葉を出し合う。 ・二十四節気の「秋」を示す言葉の意味を、解説を読んで確かめる。 ・教科書の短歌や俳句を声に出して読み、おおまかな意味を捉える。	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方にに対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■自分の地域で見つけた「秋」を俳句や短歌で表す。</p> <p>☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材 (社会、道徳)</p>		<p>2 「秋」をテーマに俳句や短歌を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句や短歌の決まりを確認する。 ・自分の地域で見つけた「秋」が表れるような言葉を選んで作る。 <p>3 創作した俳句や短歌を交流し、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「秋」を感じる表現のしかたに着目して、助言や感想を伝え合う。 	<p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、表現の意図に応じて言葉を吟味しながら俳句や短歌を作ろうとしている。</p>
10月	<p>みんなで楽しく過ごすために</p> <p>【コラム】伝えにくいことを伝える 6時間 (話・聞⑥)</p> <p>◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う。</p> <p>☆探究的な課題の解決に関わる題材 (総合的な学習の時間)</p> <p>☆主として人との関わりに関する事を考えさせる題材 (道徳)</p>	1 2 3 4 5 6	<p>1 学習の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに行ってきた話し合いを想起し、話し合いのしかたについての知識を出し合う。 ・「目的や条件に応じて、計画的に話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 議題を確かめ、目的や条件をはつきりさせる。</p> <p>3 司会や記録係などの役割をグループごとに決めて、話し合いの進行計画を立てる。</p> <p>4 目的や条件に合わせて、自分の考えを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張や理由、根拠が明確になるよう、図や表で整理する。 <p>5 進行計画に沿って、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの目的や、それぞれの考えの共通点・相違点、利点・問題点などを明確にする。 ・計画に沿って、考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いのしかたを使い分ける。 ・話し合いの過程を視覚的に共有できるように、P135「記録用紙の例」や、P254「考え方を図で表そう」を参考に、図や表を使って記録する。 ・話し合いで決まった仮の結論を実際に試してみて、改善点などについてさらに話し合う。 <p>6 意見の伝え方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P138-139「伝えにくいことを伝える」を読み、それぞれの場面について、表情や口調、表現のしかたなどについて考える。 <p>7 話し合った結果や感想をクラス全体で共有し、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件に応じて話し合うこと、計画的に話し合うことについて、大事なことを振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) <p>【態】言葉を通じて積極的に人と関わり、目的や条件に応じて、よりよい解決に向けて見通しをもって話し合おうとしている。</p>
11月	<p>漢字の広場③</p> <p>1時間 (書①)</p> <p>◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>■絵を見て物語を書く。</p>	1	<p>1 教科書の絵を見て、主人公や登場人物の行動から、作家になったつもりでストーリーを考える。</p> <p>2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を、意味を考えながら正しく用いて、例文を参考に絵に合った物語を書く。</p>	<p>【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)</p> <p>【態】第5学年までに配当されている漢字を積極的に使い、学習課題に沿って物語を書こうとしている。</p>
11月	<p>4 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう</p> <p>『鳥獣戯画』を読む</p> <p>【情報】調べた情報の用い方</p> <p>日本文化を発信しよう</p> <p>11時間 (知・技①, 書⑤, 読⑤)</p>	1	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P141で、教材名やリード文から『鳥獣戯画』や日本文化に対するイメージを広げる。 ・P8-10「五年生の学びを確かめよう」やP56でこ 	<p>【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ)</p>

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)</p> <p>■学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して調べた情報を知らせるパンフレットを作る。</p> <p>☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材（社会、道徳）</p> <p>☆題材「鳥獣人物戯画」（図画工作）</p>		<p>これまでの学習を振り返り、「筆者のものの見方や表現の工夫を捉え、それをいかして日本の文化について説明しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 『『鳥獣戯画』を読む』を、絵と文章を照らし合わせながら読み、内容を捉える。</p> <p>3 筆者のものの見方や、それを伝えるための工夫について気づいたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵」と「絵巻物」に対する筆者の評価が分かる表現を押さえる。 ・論の展開、表現の工夫、絵の示し方という点から、筆者の工夫について考える。 <p>4 学校図書館などをを利用して日本文化について書かれた本を読み、表現の工夫について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明のしかたや評価の述べ方、写真や絵の使い方などで、自分が真似したいことを書き出す。 ・書き出したことをもとに、グループで交流する。 ・「たいせつ」を読み、筆者の考え方と表現の工夫について学んだことを振り返る。 <p>5 グループで題材を決め、どんなパンフレットを作るか構想を練る。</p> <p>6 決めた題材について詳しく調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P152を参考に、引用のしかたや出典の示し方、著作権の尊重について確かめる。 <p>7 パンフレットの目的に応じてその構成を決め、役割分担をする。</p> <p>8 割り付けを決め、下書きを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P155を参考に、割り付けや下書きのしかたを考える。 ・書いた下書きをグループで読み合い、話し合って記事の内容や表現を検討する。 <p>9 清書し、パンフレットを完成させる。</p> <p>10 各グループのパンフレットに対する感想を伝え合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫されていると感じた表現や、絵・写真の使い方、今後にいかしたいことなどを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) <p>【態】 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。</p>
11月	<p>古典芸能の世界——演じて伝える</p> <p>1 時間 (知・技①)</p> <p>◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>■古典芸能について、友達と交流する。</p> <p>☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材（社会、道徳）</p>	1	<p>1 教科書で紹介されている古典芸能についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童になかなか馴染みがない場合など、必要に応じて、デジタル教材や二次元コードの資料を利用する。 <p>2 さらに知りたくなったことや、見てみたいと思ったものについて交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の関心に応じて、家庭学習などで調べさせてもよい。 	<p>【知・技】 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方について知識を得ている。(3)イ)</p> <p>【態】 古典芸能について関心をもち、理解を深めるとともに、学習課題に沿って交流しようとしている。</p>
11月	<p>カンジ博士の漢字学習の秘伝</p> <p>2時間 (知・技②)</p> <p>◎第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>○文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮</p>	1 2	<p>1 漢字の学習で、困っていることや、自分なりの工夫などを出し合う。</p> <p>2 漢字学習の三つの秘伝について、教科書に沿って確認する。</p> <p>3 「究極の秘伝」を確かめ、P161の設問に取り組みながら、漢字学習の秘伝について振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。((1)ウ) ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使ってい

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	名遣いに注意して正しく書くことができる。(知・技(1)ウ)			る。((1)エ) 【態】工夫して漢字学習を行うことに進んで取り組み、今までの学習をいかして漢字を正しく書こうとしている。
11月	漢字の広場④ 1時間 (書①) ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵の中の出来事を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、テレビ局での様子や会話を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、例にならって見学したことを分かりやすく伝える文章を考えて書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】第5学年までに配当されている漢字を積極的に使い、学習課題に沿って出来事を説明する文章を書こうとしている。
12月	5 伝統文化を楽しもう			
	狂言 柿山伏 「柿山伏」について 4時間 (読④) ◎親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりするを通じて、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ■役割を決めて音読する。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材 (社会、道徳)	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・P163で、題名やリード文、写真から狂言についてのイメージを広げる。 ・「狂言 柿山伏」の朗読CDを聞き、関心をもつた点や疑問点などを交流する。 ・「狂言を楽しみ、音読しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「狂言 柿山伏」を音読し、独特の表現と話の筋を理解する。 ・『『柿山伏』について』を読み、理解を深めるとともに、昔の人のものの見方や感じ方を知る。 ・狂言のおもしろさについて考える。 3 グループで役割を決め、音読練習をする。 ・せりふに合ったふりを付けたり、演じたりしてもよい。 4 音読の発表をし、学習を振り返る。 ・音読発表の感想を交流し、狂言や昔の人のものの見方・感じ方について、感じたことや考えたことをまとめることをまとめる。	【知・技】 ・親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方についての知識を得ている。((3)イ) 【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【態】狂言や昔の人のものの見方・考え方への理解を進んで深め、今までの学習をいかして「柿山伏」を音読しようとしている。
12月	大切にしたい言葉 6時間 (書⑥) ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ) ■座右の銘について、自分の経験と結び付けて書く。	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P176のリード文やP8「五年生の学びを確かめよう」を読み、学習の進め方を確かめる。 ・「書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 座右の銘にしたい言葉を決める。 ・選んだ言葉と、それに結び付く経験を思い出し、友達と話す。 3 文章構成を考える。 ・字数を決め、「初め・中・終わり」にそれぞれ何を書くか、構成メモにまとめる。 4 下書きをし、読み合って推敲する。 ・詳しく書くとよいところや、自分の考えを表すのにふさわしい言葉を吟味する。 5 書き表し方を工夫して清書する。 6 読み合って感想を伝え、単元を振り返る。 ・心を動かされた内容や表現について伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける。(B(1)カ) 【態】自分の考えが伝わるように書き

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	☆自分の生き方に対する関心を促す題材（道徳）			表し方を粘り強く吟味し、見通しをもって大切にしたい言葉についての文章を書こうとしている。
12月	漢字の広場⑤ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技①エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B①オ） ■絵の中の出来事を説明する文章を書く。	1	1教科書の絵を見て、商店街の様子や人々の会話を想像する。 2提示された言葉を使って、5年生までに習った漢字を正しく用いて、例にならって商店街の様子を表す文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（①エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B①オ） 【態】第5学年までに配当されている漢字を積極的に使い、学習課題に沿って出来事を説明する文章を書こうとしている。
12月	冬のおとずれ 2時間（書②） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技①オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B①ア） ■季節の言葉を用いた手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材（社会、道徳）	1 2	1冬のイメージを広げる。 ・二十四節気の言葉の意味を確かめ、教科書の中の短歌や俳句を音読する。 ・自分が「冬」を感じる言葉を考える。 2自分が住む地域の「冬」の様子を手紙に書く。 3互いの手紙を読み合い、学習を振り返る。 ・感想を伝え合い、「冬」を感じる言葉について、認識を広げたり深めたりする。	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方にに対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（①オ） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B①ア） 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、意図に応じて言葉を吟味しながら手紙を書こうとしている。
1月	詩を朗読してしゃかいしよう 2時間（読②） ◎自分が感じたことが伝わるように、詩を朗読することができる。（知・技①ケ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技③オ） ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C①エ） ■お気に入りの詩を朗読して紹介する。	1 2	1教科書にある詩を朗読する。 ・詩を読み、感じたことや考えたことを交流する。 ・どのようにすれば感じたことや考えたことが表現できるか、朗読のしかたを考える。 2お気に入りの詩を朗読する。 ・詩集などから、お気に入りの詩を選ぶ。 ・詩に描かれたことと、自分の気持ちが重なることについて考える。 ・お気に入りの詩を朗読し、友達に紹介する。なぜその詩を選んだのか、理由も述べる。	【知・技】 ・自分が感じたことが伝わるように、詩を朗読している。（①ケ） ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（③オ） 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C①エ） 【態】自分が感じたことが伝わるように進んで朗読のしかたを考え、今までの学習をいかして気に入った詩を紹介しようとしている。
1月	仮名の由来 1時間（知・技①） ◎仮名の由来、特質などについて理解することができる。（知・技③ウ） ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材（社会、道徳）	1	1仮名の由来を知り、日常的に使う文字に対する理解と関心を深める。 ・身の回りの仮名について想起する。 ・P188の一覧を見ながら、万葉仮名から平仮名・片仮名への変化について理解する。 ・「いかそう」を読み、学習を振り返る。	【知・技】仮名の由来、特質などについて理解している。（③ウ） 【態】進んで仮名の由来や特質に対する理解を深め、今までの学習をいかして適切に文字を読んだり書いたりしようとしている。
1月	6 筆者の考え方を読み取り、社会と生き方について話し合おう メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために 【資料】プログラミングで未来を創る 6時間（読⑥） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C①オ）	1	1学習の見通しをもつ。 ・P189で、題名やリード文から、これから読む文章の内容や考えていくことをイメージする。 ・「これまでの学習」を参考にしながら、説明的な文章を読んで自分の考えをもつという学習経験を振り返り、「筆者の考え方を読み取り、社会と生き方について話し合おう」という学習課題を設	【知・技】文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。（①カ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>・文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>■考えが書かれた文章を重ねて読み、考えたことを話し合う。</p> <p>☆自分の生き方に対する関心を促す題材（道徳）</p>	2 3 4 5 6	<p>定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」の要旨を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの教材文を読み、これから社会を生きていくという観点から感想を交流する。 <p>3 二つの教材文を比べて読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論の展開や構成の工夫、事例の挙げ方、表現の特徴に着目する。 二人の筆者の考えの共通点を考える。 自分の知識や経験などと比べて、気づいたことや考えたことを書き出す。 <p>4 「これから社会でどう生きていくか」ということについて、筆者の考えをふまえて自分の意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> P199-200「プログラミングで未来を創る」や、「この本、読もう」で取り上げられている本を読んで、参考にする。 <p>5 各自の意見をグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えが広がったことについて、学級全体でも共有し、感想を伝え合う。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p>を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)</p> <p>【態】複数の文章を読んで自分の考えをまとめることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。</p>
1月 1 2	<p>漢字を正しく使えるように</p> <p>【コラム】覚えておきたい言葉</p> <p>2時間 (知・技②)</p> <p>○第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第6学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p>	1 2	<p>1 「同じ読み方をする漢字」について、適切な字を選択する方法を知る。</p> <p>2 学んだ方法に従って、設問の平仮名を漢字に変換したり、間違いを直したりする。</p> <p>3 「覚えておきたい言葉」出てくる言葉について、辞書を引いて意味を確認したり、漢字を書いたりする。</p>	<p>【知・技】 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第6学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【態】 第6学年に配当されている漢字の学習に粘り強く取り組み、今までの学習をいかして同じ読み方をする漢字を正しく使おうとしている。</p>
1月 1 2月	<p>人を引きつける表現</p> <p>3時間 (知・技①、書②)</p> <p>○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>■心が引かれる表現について説明する文章を書く。</p>	1 2 3	<p>1 日常生活の中で目にする「人を引きつける表現」を想起する。</p> <p>2 教材文を読み、さまざまな表現の工夫があることを捉える。</p> <p>3 気に入った表現について説明する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書にある物語や詩、文章から、心が引かれる表現を見つけて書き写す。 選んだ表現について、どのような工夫や効果があり、自分がどう感じるのかを書く。 <p>4 書いた文章を交流し、学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) <p>【態】 比喩や反復などの表現の工夫に関心をもち、学習課題に沿って説明する文章を書こうとしている。</p>

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
2月	<p>思い出を言葉に 7時間（書⑦）</p> <p>◎目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア）</p> <p>◎作品全体の構成や展開が明確になっているかなど、作品に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ）</p> <p>○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク）</p> <p>○作品全体の構成や書き表し方などに着目して、作品を整えることができる。（思・判・表B(1)オ）</p> <p>■学校生活の思い出を俳句・短歌・詩などの形式で書く。</p> <p>☆学校生活の充実に関わる題材（特別活動）</p> <p>☆よりよい学校生活、集団生活の充実に関わる題材（道徳）</p>	1 2 3 4 5 6 7	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年間で最も印象に残った出来事について話し合う。 ・これまでの「書くこと」の学習で身につけてきたことを振り返り、「伝えたい思いを明確にして書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 伝えたいことを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象に残っている出来事を詳しく思い出し、自分にとっての意味や価値などを考えて、伝えたいことを書き出す。 ・書き出したことの中から、何を中心取り上げるのかを考える。 <p>3 形式を決め、表現を工夫して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P204「人を引きつける表現」や、P307「言葉の宝箱」を参考にして表現を選び、作品として仕上げる。 ・誤字等がないか、声に出して読むなどして確かめ、推敲する。 <p>4 作品を読み合って感想を交流し、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの表現からどのような思いが伝わったか、感想を伝え合い、自分の作品のよさを見つける。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p>【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えしたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、作品全体の構成や書き表し方などに着目して、作品を整えている。（B(1)オ） ・「書くこと」において、作品全体の構成や展開が明確になっているかなど、作品に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。（B(1)カ） <p>【態】伝えたいことを明確にすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって経験と自分にとっての意味について形式を選んで書こうとしている。</p>
2月	<p>今、私は、ぼくは 6時間（話・聞⑥）</p> <p>◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ）</p> <p>○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ）</p> <p>○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ）</p> <p>■資料を用いて自分の考えを伝えるスピーチをする。</p> <p>☆自分の生き方に対する关心を促す題材（道徳）</p> <p>☆探究的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方を考えていく題材（総合的な学習の時間）</p>	1 2 3 4 5 6	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来どんな自分でいたいか」について意見を出し合う。 ・P7「五年生の学びを確かめよう」などで、これまでの「話すこと・聞くこと」の学習を振り返り、「資料を使って、効果的なスピーチをしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 スピーチの話題を決め、内容を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢とそう思うようになったきっかけや、そのときに感じたことを書き出し整理する。 <p>3 構成を考えて、スピーチメモを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P213「矢島さんのスピーチメモ」を参考に、「初め・中・終わり」の大体の内容を考える。 <p>4 発表に必要な資料を準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に合わせて情報をしぼり、図表等を積極的に用いて提示資料を作る。 ・P264「デジタル機器を使って、プレゼンテーションをしよう」を参考にしてもよい。 <p>5 スピーチの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使う言葉や話し方、資料の見せ方など、工夫したいことをスピーチメモに書き込む。 <p>6 スピーチの会を開いて交流し、単元を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のスピーチを聞いて、感じたことや考えたことを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p>【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解している。（(1)カ）</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ） <p>【態】資料を活用して自分の考えを表現することに意欲的に取り組み、聞き手の知識や反応等に応じてより効果的なスピーチにしようとしている。</p>
3月	<p>漢字の広場⑥ 1時間（書①）</p> <p>◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）</p>	1	<p>1 教科書の絵を見て、いつ、どこで、どんなことがあったのか、学校の場面の様子を想像する。</p> <p>2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、例にならって文章を書く。</p>	<p>【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文</p>

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<ul style="list-style-type: none"> 書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵の場面を想像して文章を書く。 			<p>や文章を整えている。(B(1)オ)</p> <p>【態】第5学年までに配当されている漢字を積極的に使い、学習課題に沿って文章を書こうとしている。</p>
3月	7 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方にについて話し合おう			
	<p>海の命 6時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめるができる。(思・判・表C(1)オ) ・語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ■物語を読み、登場人物の生き方にについて話し合う。 ☆自分の生き方に対する関心を促す題材（道徳）</p>	<p>1 1学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> P217で、題名やリード文、挿絵から物語の内容を想像する。 全文を通読し、心に残ったところや疑問に思ったところなどを交流する。 「これまでの学習」を参考に、これまでの文学的な文章の学習を振り返り、「登場人物の関係を捉え、人物の生き方にについて話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 2物語の設定を確かめ、構成と内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「太一」と他の登場人物との関係を、行動や会話、情景に着目してまとめる。 <p>3 3物語の山場を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「瀬の主」と対峙したときの「太一」の心情やその変化を考える。 「太一」が「瀬の主」を殺さなかった理由や、「海の命」が表すものについて、考えを交流する。 <p>4 4それぞれの登場人物の生き方について考え、それに対する自分の考えをまとめる。</p> <p>5 5登場人物の生き方について考えたことを、グループで話し合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の考えにふれて考えが広がったことや、初めて読んだときに感じたことと学習後の自分の考えの変容を意識しながら学習感想を書く。 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 「この本、読もう」で、読書への意欲をもたせる。 	<p>【知・技】語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) <p>【態】登場人物の関係等に着目して自分の考えを広げることに進んで取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。</p>	
3月	卒業するみなさんへ			
	<p>中学校へつなげよう 生きる 今、あなたに考えてほしいこと 4時間（読④） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げができる。(思・判・表C(1)カ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○自分が思ったことや考えたことが伝わるように詩を朗読することができる。(知・技(1)ケ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめるができる。(思・判・表C(1)オ) ■詩と文章を読んで、感じたことを伝え合う。 ☆自分の生き方に対する関心を促す題材（道徳） ☆希望や目標をもって生きる態度の形成に資する題材（特別活動）</p>	<p>1 1学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> P233で、教材名やリード文から、単元で考えしていくことをイメージする。 <p>2 2「中学校へつなげよう」で、6年間の国語学習を振り返り、身につけた言葉の力を整理する。</p> <p>3 3「生きる」「今、あなたに考えてほしいこと」を読み、それぞれのメッセージとその共通点を考える。</p> <p>4 4それぞれの作品を読んで感じたことや、自分がこれからどう生きていきたいかについて考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生きる」は、朗読を取り入れるとよい。 <p>5 改めて6年間の国語学習を振り返り、これから的生活や学習に向けて取り組んでいきたいことを考え、本単元をまとめる。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 自分が思ったことや考えたことが伝わるように詩を朗読している。(1)ケ) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) <p>【態】読んで考えたことを積極的に共有し、今までに学んだ言葉の力を振り返って、生活の中で言葉をよりよく使っていこうとしている。</p>	